

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075400293		
法人名	(有)エバーグリーン		
事業所名	グループホームくろみ		
所在地	福岡県鞍手郡鞍手町大字中山3599番地		
自己評価作成日	平成28年5月29日	評価結果確定日	平成28年6月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成28年6月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「生まれ育った町で最期まで」を理念に掲げ入居者様と御家族様が満足の出来る生活を考えている。「くろみ」は、周りを田んぼに囲まれた中に建っているため、四季を通じて田植えから実りの秋の収穫までを見学している。家族には請求書送付時に生活の様子や、広報誌を送付している。隣接している医院の院長が理事を務めているため、毎朝診療前に訪れ入居者の体調管理を行っている。また開設当初と比べ入居者が重度化する中、常に異常を見逃さないように、プライバシーに気をつけながら、見守りができるように入り口にはレースのカーテンをつけている。看取りを希望する家族が増えているので、ケアからキュアに変化している中、主治医・スタッフ・家族で話し合い看取りを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場合やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホームくるみ(山ヶ崎)**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生まれ育った町で最期まで快適に暮らせる、愛あふれるくるみにしていきます。」という理念に基づき、最期までお世話をさせてもらっています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地産地消、米は施設の目の前にある田んぼで収穫された米を、買い物は町内の店を使用している。9月の夕涼み会には、乳児院の子供たちや、隣接のデイケアの利用者を招待している。また隣接している医院のデイケアの誕生会やお楽しみ会に参加。代わりに餅つき、収穫祭にお誘いしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は町より委託され、介護教室を行っていたが、ここ数年は人員不足が続きできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2カ月に運営推進会議を開催している。防火訓練や、行事に参加していただき、その都度御意見をいただき、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	1回/2ヶ月の運営推進会議に出席してもらっている。近年高齢者の行方不明があったので、地域包括センターが中心になり、見守りネットワークを整備し、事業所や、市町村と協力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームの意義をスタッフ一人一人が理解している。委員会が中心になり、物理的な拘束だけでなく言葉や、薬による拘束に対しても認識している。玄関や、ユニットのドアの施錠はしていない。命にかかわることや、怪我に繋がるような時は家族の同意を得て拘束をお願いする事がある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会で、毎月虐待が行なわれていないか確認している。職員は1回/年ストレステストを受け、その後管理者と面接を行っている。身体だけでなく、大声、言葉、無視など虐待に当たることを理解して行動している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年まで、成年後見制度を利用していた入居者が2名いたため、管理者は理解している。職員に対し研修や、勉強会は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書を交わした後変更がある時は、その都度説明し、書面で確認している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族代表を運営推進委員にお願いし、家族としての意見を述べてもらっている。また、面会時や、夕涼み会に来られた時に話を聞く機会がある。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、ストレステスト後や年に数回面接を行っている。不定期にリーダー会議、管理者会議を行い、意見を吸い上げ、1回/月の職員全員参加のミーティングで説明している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート職員が多くなってきているが、働く時間、休み時間、突発的な休みなど多くの面で働きやすい環境である。賃金は、資格に応じて決定している。盆、正月、夕涼み会の特別手当の支給や、正規社員登用もある。子育て支援も行っている。た、年次有給休暇も取りやすい。最近は、派遣を利用している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集、採用については特に基準は設けておらず面接により決定している。職員は、委員会活動や、ユニットの個別の係りを適材適所で担当してもらっている。またマニュアルのほかにも、仕事がいらい様に、細かいタイムスケジュールも用意している。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	事業計画において基本方針として『基本的人権の尊重』を一番に挙げている。施設では特に人権教育はしていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は自主的に研修に参加しているが、管理者が必要と認める研修には出勤扱いで参加している。個人の資格取得にも協力的である。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会に加入しているので、いろいろな研修の誘いがあり参加している。また、町のボランティア協議会主催のふれあい交流会にて町内のグループホームと交流している。最近では町のグループホームと協力し災害時における対応に関する協定書作りを行った。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	電話や、訪問により入所の申し込みを受け付けている。その際抱えている問題の相談があれば解決に向けてのアドバイスや、他の利用できるサービスの提供を行っている。入所に当たっては、入所者本人が納得しているか確かめている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることを解決できるように親身になって聞いている。必要な費用の明細や、必要な物品などわかりやすい資料を準備している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急に入居を希望する方には、自ホームが満室であれば他のグループホームや、小規模多機能の施設を紹介している。又、訪問介護、通所介護、ショートステイの利用などを勧めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者は人生の先輩であるので、尊敬の念を持って接している。日々の生活でできことをしてもらい、出来ないことをお世話させてもらっている気持ちで接している。職員は1～3名の利用者を担当しておりより一層の密接した関係作りが出来ている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は入居者を担当することにより家族とも密接した関係作りを行っている。1回/月のお便り、面会の際の最近の様子などを知らせている。暑中見舞い、年賀状なども出している。施設の行事や、外出は声掛けし一緒に過ごしてもらっている。特に入居者の誕生日には家族を招待して一緒に誕生日を祝っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節の便りのやり取りや、家族知人が訪問された時はソファに案内しゆっくり話せる環境作りをしている。入居者がどこに行きたいか希望を聞き出来るだけ実現できるように努力している。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべくリビングで過ごしてもらうようにしている。共通のビデオの鑑賞や、BGMを流している。時々居室にお邪魔し談笑したり、体調の悪い入居者の部屋にお見舞いに行ったりしている光景を見かける。現在は2ユニット合同で昼食を取りながら交流している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	身体状態が悪化のため入院退所となった入居者に対しては引き続きお見舞いに行っている。現在はほとんどの家族が看取りを希望されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、本人の思いや、今後どうしたいかの確認を行い、記録に残している。認知が進行し意思の疎通ができない入居者は、家族の意向を聞いている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中で、これまでの暮しや仕事の経験など聞いている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日のスケジュールと、入浴以外は特に決まっていない。洗濯物たたみ、おしぼり巻、茶わん拭き等できることを手伝ってもらっている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は1回/毎月のミーティングの前にカンファに掛ける問題をリーダーに提起し、ケアカンファで入居者の介護の方向を検討している。家族からの要望や、身体状況に変化があればその都度見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランは入居者全員のものが直ぐ見れるように1冊にしている。又、入居者個々の介護記録、バイタルチェック表(食事量、V/S、入浴の有無、排泄状況)、業務日誌、連絡帳、などにて情報を共有している。また、連絡帳、会議議事録、回覧物は見落としがないようにサインにて確認している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節毎の行事、外出、散歩、医療機関への受診などの支援を必要に応じて行っている。外出したときは必ず写真を撮り、担当者が思い思いにスクラップして、家族の面会時に見せている。写真がいっぱいになったら家族にお渡ししている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町役場、消防署、地域包括センターの公的機関や、病院、学校、他の関係施設を必要な時に活用している。特に消防署は、1回/年避難訓練を行っている。今年は、5/16に、避難・消火・簡易救命訓練を行った。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	理事である、隣接の院長が毎朝来訪されるので、入居者の状態報告し、指示をいただいている。また医療連携をとり、異常の早期発見に向けて定期的な検査を行っている。毎週火曜日に歯科往診を行なっている。看取りは家族の意向があれば行っている。		
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を行っている医院の看護師が訪問し健康管理を行っている。必要があれば隣接の医院や、専門医院の受診を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際、身の回りのものを準備して持って行く。またお見舞いノートを作成し、スタッフはお見舞いに行った時は一言励ましの言葉を書いてくるようにしている。家族もそれを読みお礼の言葉などを記入してくれる。病院のソーシャルワーカー、主治医、看護師と早期退院に向けて連絡を取り合っている。入院中の洗濯物は持ち帰り洗濯するサービスも行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、看取りが出来ることを契約書に記載して説明している。理事が隣接の院長であるので、家族は医療面については安心して任せている。院長は毎朝訪れ入居者一人一人の状態を見ながら指示を出してくれる。入居者が重度化し必要があれば病状説明や、終末期について家族や担当ケアマネを交えて話しをしてくれる。家族が看取りを希望した場合は、密に連絡をとりながら介護を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練の時に救命救急の訓練も行っている。又、急変時や事故が起きた時の対処の仕方、救急車への対応など、マニュアルを整備し、各ユニットに配置している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に依頼し、1回/年、避難訓練や、夜間の火災を想定した訓練など、行っている。また災害時の避難所も全職員が把握している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いについてはマニュアルを作成し日頃より注意している。また、接遇委員会が中心になり言葉遣い、家族、外来者に対する対応の仕方など注意している。排泄介助をするときは、扉を閉めなくてはいけないが、外の状況がわからなくなるため、入り口にレースのカーテンをし、速やかに行っている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	歌や踊りの好きな人は、両ユニット合同でカラオケをしたり踊ったりしている。夕涼み会で、カラオケを歌いたい入居者様は、今から練習をしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュール以外のことで、利用者には出来るだけ希望を聞いている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立している入居者が多いので、自分の気に入った服を着てもらっている。一日に何回も着替える方や、何枚も重ねて着る入居者には注意をしている。2回/月の訪問理美容日に本人の希望で、カット・カラー・パーマを行なっている。時々マニキュアを塗ったり、化粧をしたり楽しんでる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は時々合同で食事し、交流している。ピースの殻むき、つくしのはかま取り、シソの葉取り、など下ごしらえや、茶わん拭きを手伝ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を残す人や、偏食の人がいたので、10日間食事のチェックを行なった。その結果、全量摂取する人が増えた。水分は清涼飲料水(ポカリスエット)も含め、ジュース・紅茶・コーヒー・生姜湯・ゆず茶など好みのものを提供している。毎月体重測定を行い急激な増減がないか注意している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯のある利用者は毎食後の入れ歯洗いとうがい、寝る前はポリドントを使用している。異常があれば毎週歯科往診にて治療が出来る。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ほとんどの入居者がリハビリパンツとパットを使用している。トイレに入ったら、センサーが鳴るので、職員が様子を見に行き見守りをし、出来ないことを介助している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材は繊維のあるものを使用し、ヨーグルトなどの乳製品をフルーツと共に摂取できるようにしている。個人的にヤクルトを購入しており毎日朝食時に摂取している。ガンコな便秘者には、緩下剤を使用し、排便があれば眼で確認している。排便の有無を排便管理票に記録し管理している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	3回/週(火・木・土)入浴している。入浴できない入居者には清拭を行っている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立している入居者が多いので、疲れたら居室で、横になったり、リビングのソファに座ってテレビを見たり自由にしている。夜眠れないと訴える入居者には、昼寝を控えるように言ったり、昼間リビングでレクに参加してもらったりしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がわかるように薬の処方箋(写真入)を個人別にファイルしている。入居者の身体の変化があった時は、主治医に指示をもらっている。また誤薬がないように薬箱を朝・昼・夕と分け、食事時に個々名前を書いた箱に入れ、飲ませる時は声掛け2名で確認して口腔内投与している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	汚物を包む新聞紙をたたみ、洗濯物たたみ、お絞り巻き、茶わん拭き、食材の下ごしらえなど、出来ることを手伝ってもらっている。手伝ってもらった後は必ずねぎらいの言葉を掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の外出は、ドライブや、少人数での外出、外食になっている。毎月1回は隣接した医院のデイケアの誕生日会・お楽しみ会に参加。また、誕生日に家族と一緒に外食したり、施設に招待し一緒に祝っている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2名の入居者がお金を持っている。紛失したり、お金の管理ができなくなった時は家族にお願いし、持って帰ってもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	最近では携帯電話を持っている入居者が増えている。職員の知らないうちに家族に電話していることが多々ある。他の入居者には、子機を手元まで持って行き話してもらおうようにしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁に職員が季節感のある飾りを工夫している。天窓から直射日光が当たらないように日よけのシールを貼っている。入居者はなるべく動きやすいように薄着にし、室内温度はエアコンで調節している。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	以前はほとんどの入居者が食後は部屋に入りリビングには誰も居ないことが多かったが、今はリビングのいつも決まっている場所で一緒にテレビを観たり、話をしたりして過ごしている。入居者の状態を見て時々家具や、ベッドの移動、部屋換えも行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に新たに買い揃えるのではなく、日頃から使用していたタンス家具を持ってきてもらっている。部屋の壁には家族の写真や、贈り物を飾り、ギャラリーのようにしている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングの壁、浴室全面に転倒防止のための手すりを取り付けている。トイレのドアには大きくトイレの表示をし、使用中の札を下げています。居室の入り口には、手作りの表札、緊急時の搬送手段がわかるように札を掛けている。		